

別紙

7. 議事（1）策定方針について

番号	ご意見・ご質問	回答・説明
1	<p>策定方針のすべてにおいて抽象的な表現である。戦略だけでなく、戦略の実現に向けた戦術が必要である。</p> <p>商工会の立場としては、まちの活性化にあたり企業の存在が不可欠であり、企業をなくしては従業員数や人口が減少するため、ITを皮切りに企業誘致をしたいことが前提にある。企業を誘致することで商工業の発展、人口の増加につながる。次に、昨年の大分県への観光客数は180万人であった。大分空港から台北空港や済州島への直行便が増加している。大分県への観光客を豊後大野市に取り込んでいくための取組が必要である。また、ふるさと納税は豊後大野市の特徴をアピールし納税額増加につなげられるとよいと考える。最後に、農業は田んぼが非常に狭い。また、若年層の就農者が少ない。田畠が荒れないような農業の方針を策定してほしい。</p>	実行性の高い計画にすべきとの意見を受け止めた。企業誘致や観光、ふるさと納税について取組を進める必要があると考える。
2	<p>教育は三重総合高校しかなく定員割れしている。アンケート結果のとおり高校卒業後、市外に進学し市内へ戻りたくても働く場所がなく市内に戻ってくることができない現状があるため、働く場所の確保が必要である。人口減少へ歯止めをかける観点からも有益であると考える。</p>	子どもたちが戻ってくるまちを実現しなければ、まちの将来はないという考えに同感である。ふるさと納税は豊後大野市の資源を商品化できていない。実践できるプランにしたい。
3	<p>観光協会は2025年2月に三重町駅に移転し、観光案内所としての巨大地図パネルを作った。パネルに観光スポットのQRコードを提示しQRコードを読み込むことでGoogle Mapと連動した詳細なデータを閲覧できる。観光協会に足を運んでほしい。また、観光協会に名称を変更し事務所移転や予算関係の変革や改善を行ってきた。</p> <p>少子高齢化による産業の空洞化が進行し、地域経済が衰退し、若者が流出するという負のスパイラルに陥っている。観光協会として持続可能な観光業をするために後継者の確保が問題である。後継者と企業者、従業員を巻き込んだ人材育成が必要である。後継者の確保と人材育成により仕事、雇用、所得の確保に取り組む必要がある。観光は、幅広い分野に関係する産業であり、関係各所と連携しながら関係人口を創出し観光振興をビジネスとして進めていきたい。</p>	計画を策定しても現場で取り組む人の存在が必要となるため、現場からの意見は大切にしていただきたい。ご意見いただいた具体的な戦術については、現在、府内で施策立案シートを配布し具体的な取組を検討している。第2回策定審議会は人口減少対策としてできる施策のアイデアを踏まえてご議論いただきたい。
4	<p>みらい戦略プランは総合計画と総合戦略を一本化するにあたり、現行計画及び現行戦略の総括が必要だと考える。</p> <p>また、攻めの戦略とするために市内のやる気やチャレンジ精神がある人を応援し支えていくかが重要である。サウナやスポーツツーリズムなどが民間発信で拡大してきたと認識しているため民間の小さなチャレンジを大胆に育てていく手立てがあれば取り組んでほしい。</p>	
5	チャレンジを行う民間企業には国から資金援助があり、上乗せで県も補助金を交付している。これらの仕組みを活用できるとよい。	
6	農業委員会は1年に1度農業者から要望や問題をヒアリングしている。農業委員会としては人口増加、耕作放棄地の活用、担い手の育成に取り組んでいるが実現は難しいと考えている。観光や教育など他分野の取組と連携しながら取組を進める必要がある。他分野と連携を生み出すためのハブ拠点を整備し取組を広げられるようにしてほしい。また、今後個別施策に関する意見を述べるための機会を設けてほしい。	
7	総花的ではなく攻めの姿勢は貫いてほしい。策定方針の基本的な方針（4）は、「みんなで」とすると総花的な意味になる可能性があるため、文言の変更を検討すべきだと考える。	

7. 議事（2）各種調査結果について

番号	ご意見・ご質問	回答・説明
1	職員アンケートの回答率が低い理由を確認したい。市民アンケートで職員の資質向上を望む声もあるため、職員に対してより回答を求めてよいと考える。	職員に対して案内をしたが、回答率向上になげられなかった。次回以降は更なる対応を検討したい。より多くの職員を吸い上げていくよう工夫したい。市民アンケートと職員アンケートの結果に差が生じている項目は市政への反映を検討したい。
2	職員アンケートの実施は画期的であり、市の取組や施策を十分に理解している職員の回答は参考になる。市の職員が魅力ある仕事ややりがいのある仕事に取り組むことができる環境を整えていくことが重要である。	地域への愛着育成は、ヒトとの関わり、祭りやイベントなどのコト、特産品などのモノ、自然の4つが掛け合せで生まれる。中学生アンケートの結果を踏まえてコトが弱いように感じた。
3	中学生アンケートは、大分県全体と比較すると地域への愛着が高いと感じた。属性別にどのようにしたら豊後大野市に住み続けたいかを確認したい。大分県は若い女性の流出が大きくなっている。アンケートから性別による意見を把握することで、施策を検討するにあたり優先順位をつけやすいと考える。	また、地域内進学を実現することで地域に残るというデータがあることから、大学までの進学環境を整え、地域への愛着を育成することが必要だと考える。郷土学も同じく、学ぶことで愛着を生む。さらに、地域で体験活動を行うことは4つの視点が実現され地域への定着に繋がる。研究として地域で学生を育てつけ地域内就職率が向上した事例がある。教育の在り方として幼児期ふるさと教育の取組が必要だと考える。
4	学校を残すという考え方方が重要である。大野高校が廃校したことにより大野町の活力は低下した。三重総合高校の魅力を発信して、子どもたちに選ばれるまちを作っていく必要がある。	次に、市民アンケートの4象限を踏まえて施策に優先順位を付けることが重要である。新しい取組は強化領域、維持する取組は向上領域、改善すべき取組は見直し領域として優先順位付けを行う必要がある。検討領域は削減や効率化を検討する必要がある。
5	豊後大野市は小中一貫教育を進めている。地域に学校を残す取組として郷土学に力を入れており、まちのよいところを学ぶことができる環境がアンケート結果に反映されていると感じる。市民参画にあたって市民の意識改革が必要になる。人を重視した施策や取組を進めていく必要がある。	最後に、魅力ややりがいのある仕事という観点は重要である。人は、成長できるか、居場所があるか、人間関係が良好かの3つが整備されていないと仕事を辞めてしまう。3つの観点を整備した職場環境を市も含めて作っていく必要がある。
6	高齢者の孤立が進んでいるため高齢者についても忘れて議論を進めてほしい。	
7	就職や結婚により市外に転出することに着目される傾向があるが、少子化においては高校生の年代まで地域にとどまつてもらえる仕組みを検討していく必要がある。	

7. (4) その他について

番号	ご意見・ご質問	回答・説明
1	自治会としても企業誘致や観光誘致、景観保護、青少年育成に取り組んできた。さまざまな分野から議論を行うことでみらい戦略プランを作り上げていきたい。	-
2	大学教育は、少子化の流れを受けて統合や撤退・縮小の方向に舵が切られたところであり、選ばれる大学になるための取組を進めている。この考え方は、豊後大野市も同様であり、豊後大野市全体は運命共同体であり、関係者全員で自助努力により取組を進めなければ、豊後大野市が選ばれない地域になる。次の世代に豊後大野市を残すためにオール豊後大野市で議論を深めたい。	-